

議員は良き指導者か？

平成維新東京副代表・東京都江東区議会議員 阿部悠逸

「やさしい地方議会のはなし」という、自治省が監修する冊子があります。地方議員の活動マニュアル的存在ですが、そのなかで、議員の役割として、「全住民の代表かつ良き指導者」との記載があり、また、「良き指導者」とは、自らの高い見識と、豊かな経験に基づいて適切な判断を行い、住民にその是とするところを説明し、理解を求め、住民のコンセンサスづくりに努める事が必要とあります。

一見大変もったもな記述ですが、実際のところ、大半の議員は、「良き指導者」という言葉の意味を取り違えたのか、それともコンセンサスづくりを怠っているのか、議員や、行政の提示する施策は、全て正しく、ものわかりの悪い住民や、野党には何時も手を焼くと、とても高慢な解釈運用をしています。

議員の存在意義を語る上で、この様な、「住民の代表」か、「指導者」としての議員かという、微妙なバランスについては、大変重要な課題ですが、最近悪い意味で後者に傾いています。国民の9割が、反対する「住専処理」や、「改革なき消費税アップ」など、全く国民の意向を無視した議決がなされる現状で、住民の意見の把握や集約という本来、議員が

あるべき姿（意味）が、薄らいでいる気がしてならないのです。

そして不思議な事に、「指導者」は、英語に訳すと、「リーダー」の筈ですが、行政改革の断行など、国民が望む事に関しては、リーダーシップ（指導者的役割）を少しも発揮してくれないのです。それは、現職議員の多くが、「良き指導者」を、「ルーラー（支配者）」と訳しているからに違いないのです。

また、「良き指導者」が持ち合わせるべき「高い見識」を養うために、公費による海外視察（豪遊）は、当然と考えています。実際に、海外視察での成果と言われる報告書の内容が、新たな施策に反映される事は希で、前述の「高い見識を・・・」が、視察唯一の大義名分（エクスキューズ）になっています。今、議員に求められる見識とは、崇高なものより、生活者のセンスではないのでしょうか。

ところで、「明日の天気は変えられないが、政治は、私たちの投票で変えられる」と、よく言われます。来る7月6日の東京都議会議員選挙で、皆様は、「全住民の代表」に投票されますか、それとも「良き指導者（支配者）」にでしょうか？

運営会議への提言

八王子市 井上暉夫

ドクターストップが解けず、実質的な活動は何一つできず申し訳なく思っております。活動できない者が口だけ出すのは私の主義に反するのですが、お許しを願って一言申し述べさせて戴きます。

「生活者通信」で都民の会の活動を拝見しておりますと、会員の数の割にはテーマが多すぎて活動が散漫となり、会の力が分散してしまっているように感じます。誤解の無いように申し上げますが、会員のそれぞれの関心事について委員会を発足させたり、グループを作ることに反対したり否定したりする気持ちは毛頭ありません。そのような活動が都民の会の原点であり力であると思っております。

唯それぞれが勝手に動いても力にはならないと思うのです。私達製造業の世界では方針管理という手法がありますが、これはと思うテーマを1つ2つ上げ（4つ5つでは多すぎて力が分散されてしまい成果は期待できない）それに全員のベクトル（力×方向）を集中して事に当たる。トップはトップなりに、ミドルはミドルなりに、担当者は担当者なりに自分の守備範囲に合わせて展開するがベクトルだけは合わせるというものです。

会社のように階層のある組織の手法を、都民の会のようなフラットな組織にそのまま適用することは適切ではありません。しかしベクトルを合わせ会員の力を集中しないと何事も成就しない。

ベクトルを合わせるキーワードは「情報公開」と思います。すべての問題点は情報公開が不十分なことに起因すると思います。官僚の横暴然り、税金の無駄遣い然り、官官接待然り、霞ヶ関の密室ぶり然り、住専問題然り、不良債権問題然り。情報公開を徹底した上で、内容を国民の多数が是とするのであれば、それは認める。非とするのであれば処罰を含めた処置を取る。これだけが政・官・財の悪のトライアングルの歯止めとなると思います。国民の是非の決定に対して異を唱えることは自由ですが、国民の多数の意志は尊重せざるを得ずまい。

「情報公開」を勝ち取る方法としては、会員の一人一人が政・官・財に対して情報を要求する、取り敢えず市区町村に対して問い合わせたり、情報を求めることから始めたらどうかと思います。大上段に振りかぶった議論も必要ですが、一人一人の地道な一歩が大切だと思います。